

如月の候 宮崎県防衛協会青年部会 宮崎支部会員の皆様には 益々ご健勝のことと、衷心よりお慶びを申し上げます。

また支部会員の皆様には日頃より当支部運営に関し特段のご高配を賜り、改めての感謝と、本年変わらぬご支援を、伏してお願い申し上げる次第です。

正月も慌ただしく過ぎ去り、宮崎はいよいよ春を告げるキャンプシーズンに突入して、全国放送のTVや新聞等で県内各地を取り上げるニュースが多くなる時期でもあります。

そんな中、春の甲子園選抜に富島高校と延岡学園の2校が出場決定と云う、嬉しいニュースが県内を駆けめぐり、52年ぶりの快挙に県民の喜びも一入の思いがあると感じたところです。

特に私の母校でもある富島高校は学校創立101周年、野球部創立70周年で初出場を決め、私が在籍した普通科は40年前に日向高校として分離独立した為、商業科の数少ない男子生徒で秋の九州大会準優勝は本当に素晴らしいと思います。

さて1月の自衛隊行事は6日に「えびの駐屯地新年交歓会」が、例年になく暖かい気候の元に開催され大勢の関係者の方々と賀詞交換などをさせ頂き乍ら、古川、武井、長峯各国会議員の来賓挨拶を拝聴しましたが、やはり憲法改正では各国会議員には温度差があるようでした。

紙幅の都合上(?)その「温度差」についてまで触れることは適いませんが、お忘れでなければ今月9日開催の支部総会でお会いした折、興味のある方は私にお尋ね頂ければ幸いです。(笑)

続いて13日、MRTmiccダイヤモンドホールでの宮崎地本創立63周年祝賀会に出席したところ、宮崎市内には新田原や都城のような自衛隊関連施設がない為関係者の懇親の場が少なく、宮崎地本の企画は参加者に大好評で、植村本部長に是非来年の開催もお願い致しました。

今月も小川先生のメルマガから抜粋した一文を掲載しますので、何卒ご一読下さい。

・中国潜水艦の行動にみる習近平の狙い

中国の潜水艦が尖閣諸島の日本の接続水域を潜没航行し、多くのマスコミは緊張が高まっているとのトーンで報道しました。ほとんどの新聞が一面トップの扱いでしたが、朝日新聞だけが3面トップという、客観的というか、地味なというか、落ち着いたというか、中国に配慮したというか、そういう扱いでした(笑)。

「防衛省は11日、沖縄県・尖閣諸島の大正島周辺の領海外側にある接続水域を、潜った状態の外国の潜水艦と中国海軍の艦艇が航行するのを確認した。領海侵犯はなく、いずれも同日午後

に接続水域を出た。防衛省は**潜水艦も中国軍とみて**、海上自衛隊が情報収集と警戒監視に当たった。**潜航した外国の潜水艦が日本の接続水域に入ったのは2016年2月以来で、尖閣諸島周辺では初**」(11日付**共同通信**)

興味深かったのは、そのあと東シナ海の公海に出た潜水艦は浮上し、セイル(司令塔)に**中国国旗**を掲げるという動きを見せたことです。国旗によって国籍を確認したということで、**日本政府**は中国政府に**厳重に抗議**したわけですが、**日中関係**が大きく改善されようという時期的な問題もあり、様々な**憶測**が飛び交っています。

「日本政府は12日、沖縄県・尖閣諸島周辺の接続水域を11日に潜った状態で航行した外国の潜水艦について、中国海軍所属と確認した。潜水艦は12日に公海上で中国国旗を掲げて航行した。防衛省によると、中国潜水艦が尖閣の接続水域を航行したのは初めて。**杉山晋輔外務事務次官は中国の程永華駐日大使に電話で『新たな形での一方向的な現状変更だ』と厳重抗議した**」(12日付**共同通信**)

中国の潜水艦の行動には海上自衛隊と米海軍の出方や日本政府の反応を探るなどの目的が含まれていたことは間違いないところです。しかし、一部にあったような「軍の第一線が**暴走した**」とか、「潜水艦の艦長が**習近平国家主席の意向を知らされておらず、冒険主義的な行動に出た**」といったことは**考えにくい**のです。

これまでも書いてきたことですが、**中国の軍事組織**には部隊指揮官と同じ階級の**政治委員**(政治将校)が配置されており、**共産党中央軍事委員会**の**統制**のもとにある政治委員の承認なしには、部隊指揮官、今回の場合は潜水艦の艦長は、あのような行動に出られなかったと考えるのが自然です。

この原稿の締め切り段階で、中国潜水艦が「**商級**」の**攻撃型原子力潜水艦**だったことが確認されました。海中での静粛性を高めた「**商級**」を最初から最後まで**追尾**したということは、いつでも撃沈できるということですから、**海上自衛隊のASW(対潜水艦戦)能力の高さ**があらためて示されたこととなります。

海上自衛隊の護衛艦の**追尾**を受けている中でアンテナを海面に出して上級部隊と**定時連絡**することはできないわけで、そうなるとますます「**あらかじめ共産党中央軍事委員会の承認**を受けた行動」だったと考えてよいと思います。

共産党中央軍事委員会の承認を受けた行動だったと思わざるを得ないことについて、傍証ともいべき**専門家の証言**を紹介しておきましょう。**藤田幸生元海上幕僚長**(防衛大学校9期生)がFacebookに投稿したコメントです。

「私は、『潜水艦乗り』ではない。海中から、敵潜水艦を探し出して、これを沈める**対潜ヘリのパイロット**であった。このような写真は、あまり見たことがない！

海軍の世界では、**こんな写真**を撮られるのは、『**完全な敗北、白旗を掲げた、両手を挙げた潜水艦**』を意味するのである。(中略)海軍では、**常識的にこんなことはしない**。潜水艦は、『**隠密**』が、生命である。何処に居て、何をしているか、『**解らない、分らない、判らない**』ことが、『潜水艦の特技、特徴、強み』であり、『**海の忍者**』と言われる所以である。(後略)」

こういった「海軍の世界の常識」を知れば、**潜水艦の政治委員**に対して共産党中央軍事委員会から**与えられた指示**がどんなものだったか、目に浮かぶようではありませんか。

「日本の駆逐艦や哨戒機に**追い詰められた場合、公海に出たらすぐに浮上し、国旗を掲げよ**。そうすれば攻撃される可能性は低くなる」

浮上し、国旗を掲げた**潜水艦の写真**はたちまちニュースとして世界を駆けめぐり、**中国国内にも広まる**でしょう。中国の国民は上記の「**海軍の常識**」など知りませんから、これから述べるような狙いを込めた共産党からの「**弱腰ではない証拠**」という説明を信じるのです。

同時に押さえておかなければならない**中国側の動き**があります。新年早々おこなわれた前例のない**軍事演習**です。

「**習近平**中共中央総書記(国家主席、中央軍事委員会主席)は3日午前10時、中央軍事委員会が盛大に開催した**2018年訓練開始動員大会**で全軍に訓令を出し、第19回党大会精神と新時代の党の軍事力強化思想を貫徹実行し、**実戦的軍事訓練**を全面的に強化し、**勝利能力**を全面的に高めるよう呼びかけた」(1月4日付**人民日報**日本語版)

この動きについても、「**北朝鮮情勢**によっては**軍事介入する姿勢**をアピールしたもの」といった見方も出ていますが、**潜水艦の行動と軍事演習**の双方を視野に入れて眺めると、中国の極めて**戦略的な動き**が浮き彫りになってくるのです。

マスコミ報道の通り、**日中関係は改善の方向**に向かっています。昨年11月の安倍晋三首相と習近平国家主席の会談を受けて、日中平和友好条約締結40周年を受けた政治・経済面の行事などが予定されています。

ひとつひとつの**軍事的な動き**だけを見ると、特に**潜水艦の行動**は「**日中関係改善の動き**に水を差すもの」として不思議がられるのですが、**情報専門家の世界では違った見方**をするのです。

ご承知の通り、**中国共産党の頭痛のタネ**は**経済格差の固定化**などに対する**国民の不満**です。それが日本に対する「**弱腰批判**」という形でぶつけられ、**政権基盤**を揺るがすことが最も困るのです。

これに対しては、常に「弱腰ではない」ということを示し続けることが有効な対策です。そこで尖閣諸島周辺海域で日本の領海を侵犯するような行動を公船(巡視船)にとらせたり、東シナ海で海上自衛隊の護衛艦に火器管制レーダーを照射したりといった事態を、意図的に引き起こすこととなります。紛争が起きないぎりぎりのところでニュースになるような動きをとり続け、そのニュースを通じて「日本に対して弱腰ではない」ことを中国国民に伝え続けるという手法です。

今回の潜水艦の行動と前例のない新年早々の軍事演習は、中国が日本に対しても、そして米国に対しても「弱腰ではない」ことを示すことに主眼が置かれていたと受け止めてよいでしょう。

そこから浮かび上がってくる方向性は、中国側による日本との大幅な関係改善です。それも、普通なら「譲歩」とみられるようなことに大胆に踏み出してくる可能性があります。むしろ、それを実行することは中国の国益にかなうことですが、そのためには国内の「弱腰批判」を封じることが避けられないということなのです。

国際政治は複雑怪奇ですが、それゆえに興味深いものでもありますね。以上

正直なところ私は公海上で五星紅旗を掲げたこの中国潜水艦の写真を見たとき、「海上自衛隊や日本は本当に中国軍からなめられている」と感じましたが、軍事専門家によれば全く違った分析となり、自らの知識や思慮不足を恥じ入った次第です。

韓国の冬季オリンピック開会式に安倍首相が出席する件も、「朴政権と解決済みの不可逆的かつ完全に合意した慰安婦問題を、また蒸し返す文政権との首脳会談など必要なし」と私などは短絡的に考えるのですが、小川先生等の分析ではまた全く異なる結論が導き出されることでしようから、是非その見解などもお尋ねしたいと思います。

今月からは関連行事も目白押しで、まず9日は宮崎支部総会が18時よりスカイタワーホテル、11日の建国記念奉祝行事が10時より宮崎神宮及び神宮会館、更に23日は映画「南京の真実」が18時半からニューウェルシティ宮崎で初上映され、何と100名様無料招待ですから鑑賞希望者は出来るだけお早めにお申し込み頂ければ幸いです。

厳しい寒波襲来及びインフルエンザ等の蔓延で体調等を崩されないよう、また9日の支部総会には熊谷司令を始め県内各部隊長なども制服でご来駕頂きますので、是非皆様と元気に再会し大いに懇親を深めたいと存じます。尚時節柄、呉々もご自愛専一にお過ごし下さい。

平成30年2月1日

宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部長 小倉和彦

